

令和6年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	6102	領域略称名	中緯度大気海洋
研究領域名	変わりゆく気候系における中緯度大気海洋相互作用 hotspot		
領域代表者名 (所属等)	野中 正見 (国立研究開発法人海洋研究開発機構・付加価値情報創生部門 (アプリケーションラボ)・グループリーダー)		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる)

(評価結果の所見)

<p>本研究領域は、過去の新学術領域研究「気候系の hotspot」の後継として、新たに確立された概念である、中緯度域海洋の気候学的能動性についての理解の深化と将来予測の可能性の評価を目的とし、日本列島及びその周辺で発生する異常気象・異常天候を対象に、先進的な観測と数値モデリングの融合研究を展開するものである。</p> <p>海域観測研究では、研究期間前半の COVID-19 という不測の事態にも関わらず、計画された全観測を完遂し、数値モデリング研究との連携による台風や爆弾低気圧、豪雨・豪雪、熱波といった極端な気象現象の発生メカニズムの解明をもたらし、想定外の現象も含めたその成果は顕著である。</p> <p>また、予測可能性の評価研究では、大気・海洋のカオス性変動に由来する予測限界を与える不確実性成分と潜在的に予測可能な現象の抽出に成功している。いずれも学術的にも社会的にも高い意義を有する成果であり、今後は社会実装実現に向けた気象庁や気象研究所との連携強化が望まれる。</p> <p>他方、海域観測研究を通じた若手研究者育成によって当該研究領域の人的拡充も顕著であり、後継の学術変革領域研究「ハビタブル日本」における更なる躍動が期待される。</p>
--